



「祈りの10日間」へようこそ！

2006年に「世界的な聖霊の注ぎを求める運動」がスタートして以来、主は多くの奇跡を行なってきました。聖霊は、リバイバル、回心、伝道への熱意の回復と、関係における癒しを与えてくださいました。まさしく、祈りはリバイバルが生まれる場であるのです！

聖霊の注ぎを求め、兄弟姉妹と心を合わせて祈る時、祈られている人の人生は必ず変えられるとわたしたちは信じています。昨年、「祈りの10日間」に参加した方々の証をご紹介します。

「2013年度『祈りの10日間』においてわたしは2つのことを願い求めました。(1) 娘が依存症から解放されるように、(2) 夫が主に立ち返ることができるように。2014年度『祈りの10日間』の時には、娘が覚せい剤の影響から完全に清められ、ホームレスの生活から脱却し、全時間の働きに就くことができるようになってから8ヶ月が経過したことについて、わたしは神を賛美していました。さらに夫は再バプテスマを受け、わたしと一緒に『祈りの10日間』に参加したのです。イエス・キリストを通し、わたしたちの父なる神を心から讃えます」——ニーナ・ハーマン（米国カリフォルニア州モデスト、パークウッド教会）

「『祈りの10日間』に際し、わたしたちは健康伝道もあわせて行いました。これはキュラソー島にとって、とてつもなく豊かな祝福となりました。島中の人々が参加し、これはキュラソー島において行なわれた最も素晴らしい無料の健康奉仕であると、未信者が口々に言ったのです。神に栄光がありますように。わたしの教会においては、奇跡的な人生の改変を経験しました。音楽のタラントを与えられている人たちが、音楽伝道における献身的で敬虔なリーダーとなったのです。毎安息日、わたしたちの心と思いは、生命の言葉を受けるために音楽を通して整えられています。また、これまで説教をしたことがなかった教会員が説教をし、証をしたことのなかった青年が証しするようになったのです」——バレリー・ラシュリー（キュラソー島ウィレムスタッド、チェルアシル教会）

わたしたちの祈りのテーマ：聖霊の実を实らせること

「祈りの 10 日間」で、わたしたちはガラテヤ 5 章 22 節～25 節に書かれてある御霊の実を祈り求めます。キリストは「ご自分の子らが、ご自分に似た品性をあらわすのを見たいと熱望しておられる」のです（『各時代の希望』中巻 23 ページ）。その品性によって、わたしたちの生活における御霊の実を实らせる聖霊のご臨在が明らかにされるのです。わたしたちが主の御姿にかたどって造り変えられ、御霊の実をみのらせるための唯一の方法は、主を見上げるために時間を確保することです。

「言葉と生活と品性においてイエスに似ようと望む真の求道者は、贖い主を瞑想し、眺めることによって、彼の姿に変えられます。なぜなら彼は、キリスト・イエスと同じ傾向と意思を与えられるように望み、祈るからです」（『聖霊に導かれて』上巻 145 ページ）

キリストは、滅びゆくこの世界に対する主の証し人となるように、わたしたちの内にご自分のご品性を与えることを熱望しておられます。主は、わたしたちが祝福の通路となり、わたしたちを通して主を知らない人たちにご自身を現すようにと望んでおられます。「他人に及ぼすわれわれの感化は、われわれの言うことばよりはわれわれの人格次第である」（『各時代の希望』上巻 162 ページ）。御霊の実を实らせるために、わたしたちには聖霊が必要です。これはわたしたち自身ができる働きではありません。わたしたちにはキリストのようになる力はありません。キリストの力がわたしたちの内に働くことによってのみ、わたしたちの品性は練られ、形造られ、主の御姿により近づくことができるのです。

「キリストは人の心の内にご自身を再現することを求めておられます。そして主は、ご自分を信じる者たちを通して、これをなさるのです。クリスチャン生活の目的は、実を实らせること——信じる者の内にキリストが再現され、それがさらに他の人々のうちに再現されていくこと——です」

(Lift Him Up, p. 274)

「自分を中心とした生活の中に、成長や実りの余地はありません。キリストを個人的な救い主として受け入れたなら、自分自身のことを忘れるべきであり、他者を助けようと努めなければなりません。キリストの愛を語り、主の素晴らしさを証ししなさい。与えられた重荷を担いなさい。魂への重荷を負いなさい。そして、力を尽くして失われた者の救いのために働きなさい。キリストの霊——自己犠牲の愛と他者のために働く精神——を受ける時、あなたは成長し実を实らせるようになります。聖霊の恵みが、あなたの品性に成熟をもたらします。信仰が増し、確信が深められ、愛が完成され、あなたは徐々に純潔また崇高であり美しいキリストの似姿を反映するようになるのです」

(Lift Him Up, p. 274)

わたしたちは、生活における御霊の実を必要としており、それを周囲の人々に表す必要があります。この 10 日間、わたしたちは御霊の実を表し、神がわたしたちの内に実を实らせてくださるように祈り導く

り、主の内住によって、他の人々に主のご品性を表せるよう、求めていきましょう。

祈りの時間のガイドライン

- ・ 簡潔な言葉で祈りましょう——1つの課題について簡潔な文章で祈りましょう。そして他の人に機会を譲りましょう。会話と同じように、祈りたいだけ何度祈っても良いのです。
- ・ 沈黙の時があっても構いません。聖霊の声に耳を傾ける機会となります。
- ・ 聖霊の導かれるままに讃美歌を歌うことも、大きな祝福となります。
- ・ 祈りの課題を挙げるために大切な祈りの時間を費やしてしまうより、むしろ、それらの課題について祈りましょう。あなたが祈ったのと同じことについてさらに他の人が祈っても良いですし、あなたの必要について約束を求めて祈ってもらうこともできます。

約束を求める

神のみ言葉を通してたくさんの約束をお与えになりました。わたしたちがそれらの約束に基づいて祈ることは、わたしたちの特権です。主のご命令と勧告は、すべて約束です。主は、ご自身の力によってわたしたちが成し得ないことをするように求められることは決してありません。

わたしたちが祈る時、わたしたち自身の必要、困難、課題ばかりに目を向け、自分が直面している状況について嘆き訴えることは非常にたやすいことです。これは祈りの目的ではありません。祈りは、わたしたちの信仰を強めるものです。神の約束に基づいて祈ることをお勧めする理由はここにあります。あなたが祈りの中で用いることのできる聖句が、日々の祈りのガイドの中にあります。もちろんそれら以外の聖句を用いても構いません。これらの聖句は、自分自身の弱さではなくキリストに目を向けるための助けとなります。主の御姿に変えられるのは、主を見上げることによるのです。

「神のみ言葉の中にある約束は、すべてわたしたちのためのものです。信仰によって願い求めるならば、あらゆる霊的な祝福を受け取るという神のみ言葉は確かな約束です。求め続けるなら、あなたが求めるよりはるかに、あり余るほど豊かに受けることができます」

(*In Heavenly Places*, p.71)

「聖霊を求めなさい。神は、そのすべてのお約束を保証しておられる。聖書を手に持って、わたしは、あなたのおっしゃったとおりにいたしました。『求めよ、そうすれば、与えられるであろう。捜せ、そうすれば見いだすであろう。門をたたけ、そうすれば、あけてもらえるであろう』とあなたはお約束なさいました、と言いなさい」

(『キリストの実物教訓』126 ページ)

「目にこそ見えないが、光と力の軍勢が、神の約束を信じて、これを自分のものとする柔和でへりくだった者の保護にあたる」（『キリストの実物教訓』157ページ）

約束に基づいて祈るためには、どうすれば良いでしょうか。例えば、平和について祈り求める時、ヨハネ 14 章 27 節を用いて祈ることができます。「主よ、あなたはこうおっしゃいました。『わたしは、平和をあなたがたに残し、わたしの平和を与える。わたしはこれを、世が与えるように与えるのではない。心を騒がせるな。おびえるな』。あなたが約束された平和をわたしたちに与えてください」

聖霊

日々の歩みの中で、あるいは特定の状況において何をどのように祈るべきか、聖霊に忘れずに教えていただきましょう。わたしたちは何を祈るべきか知らないが、聖霊が執りなしてくださると聖書に書かれています。

「わたしたちは、キリストの名によって祈るだけではなくて、聖霊に感じて祈らなければならない。『御霊みずから、言葉にあらわせない切なるうめきをもって、わたしたちのためにとりなして下さるからである』といわれているのは、そのことを説明している。このような祈りを神は喜んで聞いてくださるのである（ローマ 8 : 26）。熱心に力をこめて、キリストの名によって祈るならば、そのような熱心さをもって祈ること自体が、『求めまた思うところのいっさいを、はるかに越えて』神がわたしたちの祈りに答えようとしておられることの神の保証なのである（エペソ 3 : 20）」

（『キリストの実物教訓』126ページ）

ローマ 8 章 26 節に基づき、わたしたちが誰のために何を祈るべきなのか、聖霊に祈り求めましょう。

信仰

預言の霊は、このように語っております。「祈りと信仰は、この世のどんな力もできないことをする」（『ミニストリー・オブ・ヒーリング 2005』517ページ）。神が耳を傾け、お応えくださるように、信仰を持って祈ることが期待されています。

『求めなさい、そうすれば、与えられる』とキリストはおっしゃいました。この言葉の中に、わたしたちがいかに祈るべきかということが教えられています。わたしたちは子どものような単純さをもって天の父のもとに行き、聖霊の賜物を求めるべきです。キリストは次のようにも語っておられます。『あなたがたが祈る時、求めたとおりに与えられることを信じなさい』。あらゆる罪と汚れを捨て去り、罪の告白と悔い改めをもって天の父のもとに行きましょう。主がお与えになった約束に基づいて求めることはわたしたちに与えられている特権です。……主のみ言葉を信じましょう。清

い信仰を基盤とした品性の成長が見られるか否かが問われているからです。み言葉の中に主ご自身が示されています。神があなたの祈りを聞いてくださるというすばらしい確信を自分のものとするをためらってははいけません。人間的な感情は、空の雲のように変わりやすいものなので、信仰を測る基準とはなりえません。……地上にいる間、わたしたちは天来の助けに頼ることができます。……わたしは何千回も神を試したので、信仰によって歩き続けることができます。わたしは不信仰によってわたしの救い主の御名を汚すことをしません」

(*Review and Herald*, Oct. 11, 1892, par. 1, 3, 6)

「わたしたちはあまりにもわずかな信仰しか持っていません。イスラエルの聖なるお方のお働きを、わたしたちが制限してしまっているのです。主がへりくだられ、ご自分の器としてわたしたち一人ひとりを用いてくださるということを感謝いたしましょう。信仰を持ってささげる心からの祈りに対して、答えは必ず与えられます。それは必ずしもわたしたちが望む形で与えられるわけではありませんが、確かに与えられるのです。わたしたちの計画通りに与えられることはないでしょうが、わたしたちの最も必要な時に与えられるのです。しかし、それにしても、わたしたちの不信仰は、何と罪深いものでしょう！ 『あなたがたがわたしにつながっており、わたしの言葉があなたがたの内にいつもあるならば、望むものを何でも願いなさい。そうすればかなえられる』

(*Testimonies for the Church*, vol. 3, p.209)

主がすでに祈りに耳を傾けてくださり、応えてくださることを信じる信仰が与えられるよう祈り求めましょう。

「神の約束されたどんな賜物でも求めることが可能である。つぎに、われわれは与えられることを信じ、そして与えられたことを神に感謝しなければならない」(『教育』305 ページ)。ですから、主が祈りに応え、働いてくださることを信じ、感謝をまず、ささげる者へと変えていただきましょう。

7人のための祈り

今回の祈りの10日間において、あなたが聖霊の実の實りを祈りたいと思われる7人のために特別に祈ることをお勧めいたします。親戚、友人、同僚、近隣の人、あるいは知人等、どのような関わりのある方でも良いでしょう。誰のために祈ったら良いかを、主から教えていただく時間をとりましょう。この7人に対して真の重荷を感じるができるよう、祈り求めましょう。